

ハモコミ通信は①②と毎月2回、メール配信させていただいております。①のほうはホームページでも公開しておりますとおり、A4版1枚のペーパー版も作っています。何かを郵送するついでに同封するようにしています。

HP上のバックナンバーも、このペーパー版のみ都度公開しており、②のほうは1年分まとめての公開とさせていただいております。

遅くなりましたが、2012年②特集、どうぞお楽しみくださいませ。

ハモコミ通信 2012年1月②

◎ 縁の中に生きる

森信三氏は、「人生二度なし」を根本信条とした、明治時代の哲学者・教育者です。大学で教鞭（きょうべん）を執（と）るかたわら、各地で講演を行い、多数の著書を著すなど、世に人生の指針を示しました。その森氏に、次のような言葉があります。「与えられた人と人との縁をよく噛み締めたなら、必ずやそこには謝念が湧いてくる。これはこの世を幸せに生きる最大の秘訣といってよい」。

世界の人口は現在、約七十億人ともいわれます。その中にあって、私たちには、何らかの理由で出会うこととなった人たちがいます。このような、まさに天文学的な確率の中で発生した縁を私たちは改めて見つめてみる必要があるのではないのでしょうか？「人事異動で席が隣り合った縁」「上司と部下の間柄となった縁」「取引先の新任担当者との縁」など、当たり前と思っている関係について、一度ゆっくり考えてみましょう。感謝や謝罪などの念が湧いてくるはず。縁あって知り合った者同士、謝する心を忘れずに生きたいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

縁の不思議さについては今更言わずとも、ですが、よく噛み締めろ、必ず謝念が湧くから、っていうのは初めて聞きました。特に、変な人(?)に出会ったときに効果を発揮しそうです(●^o^●)というか、変な人に思える人ほど、必要あつての出会いなのでしょう。

森信三先生と言えば、「出会うべき人には必ず出会う、しかも一瞬早すぎず、一瞬遅すぎずに」という言葉は有名ですね。このメールをお送りしている皆さんとの出会いは、ある意味、必然だったのだ、

ということが言えます。このステキな出合いを活かせる人間に成長しなくては。

◎ 肚(はら)を据える

「この海を越えて世界を見て回りたい」という夢を持ち、世界最年少でヨットの単独無寄港世界一周を達成したのが海洋冒険家の白石康次郎氏です。この偉業の陰には、亡き師匠の「ヨットは楽しむもの」という言葉がありました。荒れた海で転覆しそうになった時でも、平気な顔で酒を飲む師匠の姿に氏は触れました。そして<様々な困難を体験し、それを一人で乗り越えた苦労があったからこそ、あらゆる状況で楽しむことができるのだ>と気づいたのです。

物事の本当の楽しみは、逆境を乗り越える中から生まれるといえます。しかし苦しさや辛さから逃げ出したくなることは、人としてよくあることです。まずは「乗り越える」の前に、「逃げ出さない」と肚を据えることでしょう。逃げ出さない意思を自分の中に据えると、乗り越えるための気力・体力が満ちてくるものです。自身に漲る(みなぎる)「力」は、困難克服への必要最大の要件です。「逃げ出さない」「乗り越える」を何度か経験した後は、先の師匠のような境地に近づく道が生まれるかもしれません。負の状況を楽しむ道を探りましょう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

転覆しそうな時でも、平然として酒を飲む！酔っぱらう、とかそういうのではなく、その状況を甘く見ているわけでもなく、やるべきことはすべてみえており、慌てずたじろがず、堂々とそれに立ち向かう、一番酒がうまい瞬間、エクスタシーのような境地なのかもしれませんね。前回とりあげさせていただいた中谷彰宏さんがいうところの「セダクティブな人」まさにそのままのように感じました。

会社の周年記念品のご用命はありませんか？

ハモコミ通信 2012年2月②

◎ 一言加える

ペットショップを営むK社長は、人懐こい性格で、誰にでも自然に声をかけます。NさんがそのK社長と昼食を共にしたときの話です。K社長が「景気が回復しない時だからこそ元気を出さなければね。会社や家庭で二言(にげん)挨拶をするといいよ」と

言ってきたのです。私たちは同僚やお客様と接する際、「おはようございます」「いらっしゃいませ」と挨拶を交わします。こうした挨拶に「お元気ですか」などともう一言付け加える「二言挨拶」を実行するよう、K社長は心がけているというのです。

K社長の人懐こさ、人情深さの秘訣を垣間見たNさんは、まず家庭の中で「二言挨拶」を始めてみようかと決心しました。挨拶に一言加えるだけで、自分自身の気持ちが清々しくなっていくと感じたNさん。職場での会話もスムーズになっていることを実感しました。挨拶を交わすことは、人として基本中の基本です。今日から明るい心持で、もう一言を添えて、より良い人間関係を築いていきましょう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

確かに、これが上手な人はコミュニケーション上手、って感じがします。自分はまだまだです。「二言挨拶」という言葉は初めて聞きました。どうやら駒沢大学野球部の監督を長く務められた太田誠氏の造語のようです。その太田元監督をうならせたのが今年から横浜 DeNA の監督に就任したあの中畑清氏。駒大野球部時代から、誰かれ構わず声をかけ、そして一言付け加えていたそうです。太田氏によれば、二言挨拶の「二言」は、必ずしも言葉である必要はない、というのです。すれ違った相手のために立ち止まること、手振りや微笑であってもいい、というのです。はは～ん、つまり人間同士の心と心の通い合いを一步深める、ってことですね。それなら結構やっているかも。いつも挨拶とともに微笑んでますから。んが・・・たぶん相手には伝わってないだろう、ってことに気づきました。何しろ私の目、細～～いですから（●^o^●）

◎ 困難だからこそ

「憂鬱でなければ、仕事じゃない」という本が、昨年話題となりました。実業家の藤田晋氏が、業務提携する書籍編集者の見城徹氏と役員会をしていた時の、見城氏の発言がタイトルになっています。

労せず仕事が進み、成果が出ることは、誰しも望むことでしょう。現実には、業務を進める途上で問題はつきものです。それにどう取り組むかが大事です。困難から逃げてばかりでは、良い結果が生まれるはずはありません。場合によっては周囲のスタッフに、余分な負担をかけてしまうことさえあります。憂鬱に思うのは、それだけ改善すべき課題が多いということであり、簡単に出来ないからこそ仕事として存在しているのです。さらに課題が多い仕事であれば、実りも大きいといえるでしょう。難しい仕事ほど、やり遂げた際の喜びもひとしおです。大きな困難を克服することは、自己を飛躍的に成長させて

くれるものです。難しさや厳しさを、ステップアップのためのハードルと受け止め、明るく業務に取り組んでいきましょう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

仕事の難しさ、というとき、それは様々な角度からみていく必要があるでしょう。障害を持っている人、持病を抱えている人、乳飲み子が待っている人、自信を失っている人、といった人によるものや、金銭面、時間的側面、技術面、政治力の欠如、あちらを立てればこちらが立たずといった人間関係の問題・・・まずは問題そのものがはっきりわかり、活用できるタマを書き出していくと多少なりとも前に進めそうな気がします。

ハモコミ通信 2012年3月②

◎ 好き嫌い

人が何人か集まると、お互いに好き嫌いが生じるものです。「周りに嫌いな人間はまったくくない」という人は、おそらくいないのではないのでしょうか。特に職場という限られた空間では、人の好き嫌いは顕著なものとなりがちです。人の嫌なところや欠点は、よく目につくものです。それに対して、好きなところや長所は見逃してしまいがちです。

阪急グループ（現阪急阪神東宝グループ）の創業者・小林一三氏は、今日の私鉄経営のモデルを作った第一人者です。氏は「人の欠点を探さず、長所を見る」をモットーに、責任ある仕事を任せることで長所を見いだしました。「人は鏡」「嫌うものには悩まされる」などといわれます。

人は様々な側面を持っているものです。自分自身も含めて、欠点も長所もあるのが人間なのです。職場に嫌な人、苦手な人がいるならば、「相手の見方は変えられる」を肝に銘じていきましょう。人の長所を発見するとともに、自らも「自分と未来は変えられる」と自己革新を続けていきたいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

「嫌うものには悩まされる」というフレーズ、ドキッとしました。逃げたり避けたりしていると、いつまでも同じようなタイプの課題がふりかかってくるものね。

◎ 人の姿が己の姿

私たち人間は、日々、他人との関係を保ちつつ生活しています。そのため時として、他人の欠点や誤りなどが目につくことがあります。例えば、身近な相手として夫婦の関係があります。日頃から、あまりにも近い存在であるために、つい相手に対する要求が強くなり、結果として互いの関係に亀裂が生じる場合さえ出てきます。しかし相手に対する要求がある場合、相手も自分に対して何らかの要求を持っていると考えるのが自然です。悪いのは相手だけで、自分は完璧であるというのは、考えてみれば虫のいい話です。元来、人間は他人からの忠告を素直に聞き入れたり、悪いクセを矯正したりすることが難しい生き物です。しかし目の前にいる人の姿は、自分の内面を表わす鏡です。「人の振り見て我が振り直せ」とは、非常に現実的な諺だといえます。相手に欠点を感じた時こそ「自己成長のチャンス」と捉え、積極かつ謙虚に自らの生き方を振り返り、素直な気持ちで、自己改革に取り組んでみましょう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

例えば夫婦、っていうのにまたまたドキッです。まさにこのまんま（苦笑）。反省します（苦笑）。

◎ 嫉妬活用法

他人が昇進する、ほめられる、会社から好待遇を受ける、また他の社員から人気があるなどすると、人は嫉妬心を抱いてしまうことがあります。嫉妬をしないようにと努めても、嫉妬心そのものを消すことはなかなかできません。しかし、嫉妬も捉え方を変えれば、プラスの事柄として活用することができます。嫉妬心が生じたら、次の三点を意識してみましょう。

①の対象の人に負けないような実力を身につけようとする。

②同じ分野でその人にかなわなければ、他の分野で自分を磨く。

③その人は、自分を奮起させてくれる応援者だと受け止め、感謝を深める。

嫉妬は、自分がないものを渴望する心です。それが相手への責め心となってしまうと、お互いの関係を悪くする原因にしかならないでしょう。しかし、「嫉妬は自分の課題を教えてくれる尊い師である」と捉えて努力を重ねれば、自己向上の大きな糧となるのです。互いの成長を願いながら切磋琢磨することで、職場は日々進化するのです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

嫉妬は、自分がないものを渴望する心。嫉妬は自分の課題を教えてくれる尊い師。なるほどなあ・・・。

◎ 美しきゴミ

自動販売機の空き缶収集箱の横に、「なぜ捨てる口付け交わした仲なのに」「たった今口付け交わして捨てられる」と書かれた標語があります。

これは、ある都市のポイ捨て防止キャンペーンの事例です。購入者の気分転換を図ったり、栄養素の摂取をしたりと、清涼飲料を体内に運んでくれた缶やペットボトルは、内容物を美しく衛生的に守ってくれます。直前まで貴重な役割を果たした容器は、すべて生きている「物」といえるでしょう。手放す際には頭を下げ、「ありがとうございました」と思い、資源として再生されることを願って、礼を尽くすことが大切なのです。

物との別れについて、「片づけコンサルタント」の近藤麻理恵氏は、「今はもうときめかなくなったモノを捨てる。それは、モノにとっては新たな門出ともいえる儀式なのです。その門出を祝福してあげてください」と説きます。シュレッダーした紙、ティッシュ、爪楊枝、菓子の包み紙等、去り行く身近なモノの多大なる貢献に、思いを深める習慣を持ちたいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

コピーライターってすごいですね。冒頭のキャンペーンの一文には参りました。片づけコンサルタントさんの言葉も重みがあります。包み紙には包み紙の役割があり、それがあったからこそ、中身を引き立たせてくれたり、汚れから守ってくれたりしたわけですものね。

<編集後記>

今月12日に父が他界しました。これまでご厚情いただいた皆様に心より御礼を申し上げます。

会社の周年記念品のご用命はありませんか？

ハモコミ通信 2012年4月②

◎ その位に素して行う

孔子の孫、子思が著した「中庸」にある言葉です。立派な人物は自己に与えられた環境の中で、運命を呪ったり不平不満を言ったりせず、精一杯の努力をし、それ以外の事は考えない、ということです。

昭和 30 年代、プロ野球のオールドファンなら、誰でも知っている野球選手の話です。この人が登板すれば必ず勝つという伝説を残し、「神様、仏様、稲尾様！」と謳われた西鉄ライオンズの投手、稲尾和久さんです。昭和 12 年生まれ、高校 3 年の時に西鉄にスカウトされます。当時、高卒の初任給は、6000 円が相場の時代に、月給 35000 円、契約金 50 万円。契約に来たスカウトマンがちゃぶ台に 50 万を積み上げた時、お母さんはその現金を見て気絶した、という。そして、卒業前からキャンプ入りした。卒業式が間近になり先生から連絡が入った。「お前のために特別の卒業式をしてやるから帰ってこい」と。監督にその旨伝え、「お前、帰りたいか」と問われた。「はい、帰りたいです」、「そうか、帰りたいだろうな。しかし、お前は過去の思い出に生きるのか、未来に生きるのか、どっちだ。自分で決めろ」。この言葉に、18歳の少年は帰るのをやめ、キャンプに残った。

球団には同期の新人が2人いた。日が経つにつれ、その2人と自分の扱いが違うことに気づく。一人はコーチがついてブルペンでピッチングの練習。もう一人もバッティングの練習をしている。しかし、自分は打撃投手ばかりで、「手動練習機」と呼ばれた。或る日、稲尾さんは二人を食事に誘った。それで分かったのは、二人は、それぞれ月給が10万円と15万円、契約金が500万円と800万円ということだった。稲尾さんは自分の立場を知った。

普通なら、ここで、心が折れたり投げやりになったりしがちである。だが、伸びる人は、あらゆる条件を生かして伸びていく。稲尾さんは、黙々と打撃投手を務め続け、あることに気づく。打者はストライクばかりではバットを振り続けなければならず、嫌がる。4球に1球ぐらいは、ボールが交じると、ゆとりができて喜ぶ。稲尾さんは、4球に1球はボールを投げることにした。480球投げるなら、120球は自分の練習のためだけに使える。高め、低め、アウトコース、インコース、ボールにする1球に、「精魂」を込めた。こうして、稲尾さんは無類の、「コントロール」を身につけていったのだ。

これは、正に「その位に素して自分を鍛え」、偉大な投手への人生を切り開いたのである。先人の足跡に学び、私たちも、其位素行の人生を歩みたい！（以上、「致知5月号」より）

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

不平不満を言わず、黙々とやり続けた人にだけ与えられる智慧。4球に1球のボール球に精魂を傾ける、っていうことに稲尾さんの下積み時代の真骨頂を感じますね。さらには4球に1球ストライクをはずす、っていうことは、3球は全部ストライクでなければならない、っていうこと！それまたスゴイ話です。このテーマに稲尾氏の逸話を持ってきたあたり、藤尾氏の編集力もさすがです。

<ちょっとPR>

この致知出版社藤尾秀昭社長の講演会が仙台で行われます。月刊誌「致知」は創刊以来33年間一貫して、いつの時代でも問われる「人間学」を探求し続けており、出版物が氾濫する中でも、「致知」は「秘中の名花」と多くの見識ある財界人を唸らせ、京セラの稲盛和夫名誉会長、ウシオ電機の牛尾治朗会長など各界のリーダーにも熱心な愛読者を持っている、とのことです。

さて、そんな致知出版社社長藤尾氏のプロフィールは以下のとおり。

昭和53年月刊誌「致知」創刊昭和54年編集長に就任平成4年代表取締役役に就任、現在に至る主な著書「小さな人生論1~5」「現代の覚者たち」「小さな経営論」「心に響く小さな5つの物語Ⅰ・Ⅱ」「プロの条件」

■ 藤尾秀昭氏講演会

テーマ 「出逢いの人間学 ～出逢いとは人生そのものです～」

【日時】 5月25日（金）18:00 開場、18:45 開演

【会場】 仙台市民会館小ホール（定員 500 名）

【参加費】 2000 円

【主催】 仙台広瀬倫理法人会

お申込お問合せは、hirose@rinri-miyagi.com（担当：米沢）

またはこのメールに返信（当日精算券をご準備します）

<編集後記>

藤尾氏の講演を今年の1月に拝聴し、感動しました。ぜひ、この話をもっとたくさんの人に聞いてもらいたいと思い、直談判しました。そんな訳で不肖私が実行委員長を務めさせていただきます。

興味がありましたら、致知出版社のHPもご覧ください。

<http://www.chichi.co.jp/>

ハモコミ通信 2012 年 5 月②

◎ 人は城

甲斐の戦国大名・武田信玄は、最強と謳われた騎馬軍団を作り上げた武将です。生涯における合戦の数は百三十余度に及び、一度たりとも敵を自国に入れることはありませんでした。信玄は青年時代から禅や学問を学び、また詩や和歌にも親しんできました。信玄の詠んだ和歌の中で、最も有名なのは次の歌でしょう。

人は城 人は石垣 人は堀 情けは身方 仇は敵なり

「仇」は「恨むこと」という意味です。信玄は堅固な城を造るよりも、領民の生活の安定に努めました。人を大切に、「武田二十四将」と呼ばれる幹部を育て、最強の軍団を作り上げたのです。この和歌は、後に江戸時代の人々が作ったものという説もありますが、信玄の生き方をよく表わしたものであるとして、現代でも広く親しまれています。

「人材は人財である」とは、よく言われることです。人と人とが協調して仕事に励む時、苦難は去っていくでしょう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

この和歌。聞いたことはありましたが、あまり深く思いを馳せたことはありませんでした。まさにこのことを実践したからこそ時代を超えて語り継がれる実績を残せたわけですね。これだ、と思ったら、徹底して体現していく力、実践力を養っていききたいものです。

◎ 活気のない講演会

飲食店チェーンのA社では、毎月、外部講師を招いたセミナーを開きます。講師を選ぶ際、実行委員の一人が「とても情熱的な講師がいるらしいよ。受講者の誰もが心が熱くなり、やる気に満ち溢れるそうだと教えてくれました。そこで全員一致で、その講師を呼ぶことに決めたのです。当日、固唾を呑んで皆が二時間の話に耳を傾けました。しかし講師は淡々と話をするのみで、いっこうに熱を帯びる気配がありません。一時間が経過し休憩に入った時、堪りかねた実行委員の一人が「〇〇講師。私たちは情熱的な話を期待しておりました。しかし失礼ながら、今日の講師の話には、まったく熱さが感じられ

ません」と語気を荒げて質問したのです。すると講師は「私はいつも来場者の皆さんに合わせて話をしています」とアッサリと言うと、休憩室へと去っていったのでした。その言葉を聞いて、ただ受講するだけの、受身的な態度に皆がなっていたことに気づいたのでした。意欲に満ちた職場環境であるか再確認したいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

先日似たような体験をしてしまいました。講師の話がまったく力が入ってなかったのです。今思えば、参加人数や会場の雰囲気づくり、イスの配置など、もっともっと配慮すべきところがありました。講師の良さを最大限引き出す準備と盛り上げが求められていたのです。もちろん講演会に限らず、場づくりをリードするのは、まずはこちらから、と心したいものです。

<ちょっとPR>

致知出版社 藤尾秀昭社長 の講演会がまもなく(5月25日) 仙台で行われます。月刊誌「致知」は創刊以来 34 年間一貫して、いつの時代でも問われる「人間学」を探求し続けており、出版物が氾濫する中でも、「致知」は「秘中の名花」と多くの見識ある財界人を唸らせ、京セラの稲盛和夫名誉会長、ウシオ電機の牛尾治朗会長など各界のリーダーにも熱心な愛読者を持っている、とのこと。

今月号の月刊致知を立ち読みしたい方はコチラ↓
<http://mixpaper.jp/scr/viewer.php?id=4fa0e975f2b73> なんとタイムリー。村井宮城県知事と鍵山秀三郎氏との対談が今月号の目玉です。

さて、そんな致知出版社社長藤尾氏のプロフィールは以下のとおり昭和 53 年 月刊誌「致知」創刊昭和 54 年 編集長に就任平成 4 年 代表取締役役に就任、現在に至る主な著書 「小さな人生論 1～5」「現代の覚者たち」「小さな経営論」「心に響く小さな5つの物語 I・II」「プロの条件」藤尾氏の講演が 2000 円というのは安過ぎる、と、青森から申込んでくれた方もいらっしゃいます。

■ 藤尾秀昭氏講演会

テーマ 「出逢いの人間学 ～出逢いとは人生そのものです～」

【日時】 5月25日(金) 18:00 開場、18:45 開演

【会場】 仙台市民会館小ホール(定員 500 名)

【参加費】 2000 円

【主催】 仙台広瀬倫理法人会

申込お問合せは、hirose@rinri-miyagi.com (担当: 米沢)
またはこのメールに返信 (当日精算券をご準備します)

<編集後記>

先日父が他界し、母は一軒家に独り暮らしとなりました。

不安もあるだろうと、ALSOKのセキュリティをプレゼントしたところ、これまでになく喜ばれました。この体験から同じような方にお奨めしたいと思い、取扱店となりました。おすすめの親孝行プランは、その名もALSOK シルバーパック。

<http://www.alsok.co.jp/person/silverpack/>

工事費ゼロ、月々わずか3706円で、安心をお届けします。

ペンダント型ボタンを身につけるので、不審者の気配がするときはもちろんのこと、急に体調が悪化したときでも、ボタンを押すだけ。エプロンの紐につけている母の姿を見るにつけ、いいプレゼントだったなあ、と実感しています。よろしければお問い合わせくださいませ。

ハモコミ通信 2012年6月②

◎感動は脳を豊かにする

医学博士の大島清氏は、「感動」の反対語は「退屈」かもしれないと言います。退屈は脳を老化させ、感動は脳年齢を若々しくすると強調します。感動は人の心の奥底に強く働きかけ、心を浄化し、癒し、そして行動を促すので、感動の少ない人は退屈な人生を送ることになるのでしょう。同じ状況下であっても、感動する人とならない人がいます。これは感動する感覚の違い、つまり「感動力」の差だと考えられます。

どうすれば感動力を高められるのでしょうか。それには次のようなトレーニングを試してみたいかががでしょう。ふだん「当たり前」と感じていることに眼を向けて、自らにその意味を問いかけるのです。例えば、家族がお茶を淹れてくれるなどの些細な事柄に眼を向け、それを「当たり前だ」と片付けず、「有り難いことかもしれない」と問いかけるのです。「有り難い」と感じるようになると、日常の場も新鮮に映ります。新たな感動が得られ、併せて他者の感動も引き出して、共に感化し合う空間が生じるでしょう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

先日拝聴した、ある講演の演題が「白いカラスと隣の女房」というものでした。「白いカラス」のほうはさておき、「隣の女房」の話は、今回のコラムの後半部分とピタリ共通します。奥さんに感謝できない人は、今日の前にいる自分の奥さんを自分の奥さんじゃなく、隣の奥様だと思ってみろ、ということです。隣の奥様がわざわざあなたのためにお茶を入れてくださる、隣の奥様がわざわざあなたのためにご飯を作ってください、隣の奥様がわざわざあなたのために掃除をしてくださる、・・・どうです？想像できますか？私もこの話には笑いつつ、なるほど、感謝の気持ちが足りないな、と反省したのでした。当たり前前に感謝する、これは今回の震災の教訓でしたが、ノドもとを過ぎると、すぐ熱さを忘れてしまいます。

◎思い込み

Aさんが高速バスに乗り、出発を待っていた時のことです。発車時間ギリギリになって、一人の青年が駆け込んできました。青年は息を切らせながら、険しい表情で席を探しています。Aさんはく今どきの若者が乗ってきて厄介だなと、第一印象から不快感を覚えたのです。

すると、Aさんの後ろに座っていた老婦人が「どうぞ、こちらにお座りになって」と窓側の席を譲ったのです。「私はトイレに行くことがあるから通路側がいいの。勝手なことを言ってごめんなさいね」と話しかける婦人に、青年はていねいに会釈して席に着いたのです。

その後、青年は婦人が降車するまで、誠実に彼女の話聞いていました。そのやり取りを耳にしながら、Aさんは青年がバスに乗ってくるやいなや、良いイメージを持たなかった自分を反省しました。く自分は人を見た目で判断していたと気づいたAさん。くまずは相手のそのまますを受け入れよう。具体的な評価はそれからのことだ」と気を引き締めたのです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

コラムの本筋とは少し外れますが、第一印象が悪かった場合、それが払拭(ふっしょく)されるためには最低何回会う必要があるか、男女別に研究したデータがあります。男性の場合で4~6回、女性の場合で8回~10回だということです。しかも女性の2割は、第一印象が悪かった場合、永遠にその印象は変わらない、ということです。恐ろしいことですね。

印象を与える立場と受ける立場、どちらも気をつけたいものです。

<編集後記>

necomimi なる商品をご存知でしょうか？あなたの脳波をキャッチして動くネコミミ型コミュニケーションツールというのがキャッチコピー。
http://nicoshop.nicovideo.jp/necomimi/?sesid=68Qxf_bo2Rni

コミュニケーションツールという言葉に反応し、さっそく購入して、いろいろな場面で実験中です。もちろん自分でもつけてみました。猫の無意識を少しだけ理解できたような気分になりました（笑）。きっともう少しすると改良タイプが出てきて値段も安くなってくると、かなり普及する予感がします。

ハモコミ通信 2012 年 7 月②

◎他力と自力

自分では何もせず、他人まかせにして頼ることを「他力本願」といいますが、本来の意味は違います。元々は仏教用語で、辞典には「衆生（生けるもの）を救おうとする阿弥陀仏にすがって極楽往生すること」とあります。「他力」の反対語は「自力」です。自分の修行によって悟りを開こうとすることを「自力」といいますが、自力で悟りを開こうとすることは難しく、仏に助けを求めるのが「他力本願」です。

自分では何もせず、他人に頼る人がいます。逆に自分に自信のある人は、人まかせにできずに、すべてを自分だけでやろうとします。職場で大切なのは両方のバランスです。自分の力を発揮しつつ、他人の力も借りることによって、より良い仕事ができるのです。どちらか一方への偏りは、スムーズな仕事の流れを妨げます。おおよその目安として、自力七分、他力三分のバランスを意識していきましょう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

学校教育というものは、自力を鍛える場所なのでしょう。とても大切なことだと思いますが、弊害も感じます。それが、他力を借りることが、あたかも悪いことのように思ってしまう学生が多いことです。実際の社会はいろいろな人の協力をとりつけることが成功の大きな要素であり、まさにここでいうバランスの話が学校の先生にもしてもらいたいなあ、と思いました。

◎ 道歌(どうか)

「道歌」とは、生きていく上でのいろいろな教訓を、短歌の形にしたものです。江戸時代にはたくさんの道歌が作られました。

『悪しきこと 人は知らぬと 思うとも 天に口あり 壁に耳あり』

『よきことは 真似になりとも するがよし いつしか 馴れて 誠にぞなる』

江戸時代の庶民は、文字を読めない人が多くいました。しかし、五七五七七の短歌にすれば覚えやすいため、大切な教訓は道歌として作られました。それらは、口から耳へと、たくさんの人々に広く伝えられていきました。

『世の中に 花も紅葉も 金銀も 与えてあるぞ 精だして 取れ』

『世を渡る 道はと問わば とにかくに 夫婦睦みて 親子親しめ』

このように勤勉や夫婦愛和といった生活の規範も、道歌に歌われて庶民の心に根付いていったのです。

東日本大震災の際には、日本人の道徳的に優れた行動が、世界中から賞賛されました。道歌が日本人の道徳的な底力を、育ててきた一面もあったのです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

伝統の力、歴史の底力、そんなものを感じるものがたまにあります。震災のときはまさにそのとおりでしたね。戦後、占領軍によって伝統的な日本の古き良きものが次々と教育現場から取り除かれてしまいましたが、目に見えない形で受け継がれているものがあるんですね。

<編集後記>

南三陸町歌津で牡蠣、ウニ、帆立、ワカメなど、育てる漁業を営んでいた高橋家。津波で家も工場も車も船（4隻）も、みんな流されてしまいましたが、家族の命と前に向かう気持ちだけは流されなかったのです。彼らはまさに自力と他力 7 対 3 くらいでやってきたと思います。いち早く行動に移り、1年3ヶ月を経て、先日新造船の進水式を迎えました。一緒に支援してきたメンバーたちが招待され、復活のスタートラインに立ったことを盛大に祝ってきました。ここの牡蠣はハンパじゃなく美味しいのです。今年の冬、どの程度の収穫があるかわかりませんが、一般にもまわせるほどの収穫があるようでしたらご紹介しますね。

◎伝統を未来へつなぐ

自立式電波塔として世界一の高さを誇る「東京スカイツリー」が、五月二十二日に開業しました。日本古来の技と最新技術を駆使して造られています。六百三十四メートルの高さを支える構造は、法隆寺の五重塔をモデルとし、地震や強風の揺れを低減する技術を採用しました。ツリーの色は、日本の伝統色で最も薄い藍染の色の「藍白」をベースにした、オリジナル色となっています。夜の照明には、江戸で育まれてきた心意気の「粋」を隅田川の水をモチーフに水色で表わし、美意識の「雅」を気品ある江戸紫色で表現しています。現在、私たちは便利な道具に囲まれて、様々な仕事を効率的に進めています。それらは、祖先から代々積み上げられてきた、技術の継承があるからです。日頃の業務においても、職場の伝統を受け継ぎ、自らの思考、技術とを融合させて進化させていくことが大切です。先人たちの築いてきた伝統を受け継ぎ、後世に残るような創意工夫を凝らして、業務に邁進していきたいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

東京スカイツリーについては、様々な報道を見聞きしましたが、伝統継承という観点からとりあげたものに触れることはありませんでした。やはりあれだけのビッグプロジェクトともなると、多角的な技術と先人から積み重ねられた経験が活かされているのでしょうか。万有引力を発見したニュートンが、彼の偉業について意見を求められた時、「もし私が他の人よりも遠くを見ているとしたら、それは巨人の肩の上に立っているからだ」という謙虚な言葉で答えたそうです。

当たり前のように、電気も水道も道路もインターネットも、必要なだけ利用することができる今、何かを成し遂げることは、昔の人の何百倍も何万倍も楽なはずですね。先人に感謝して、良い思いを持って、果たしていきたいと思えます。

◎ 日常の再点検

「生年百に満たず、常に千歳の憂いを懐く(いやく)」と続く漢詩文があります。「人の一生は百年に満たないものの、その中で千年もかかるような難題や悩みに、人はいつもこころを向けて挑戦している」という意味と理解されています。日立製作所会長の川村隆氏は、この詩を「目先の成果ばかり追わず、時間のかかる根源的な研究開発にも対処せよ、という解釈をして、後輩たちは民間会社としてはやや異

例な基礎研究重視のよすがにもしている」と語ります。同社では、その精神を「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」という企業理念に込めているそうです。

売上を伸ばし、利益を上げることは、企業の最大の使命です。しかし目先の利益に目を奪われ、改善工夫が疎かにされると、厳しい環境を生き抜くことができません。そして製品もサービスも、いずれは陳腐化していきます。日常を再点検することは、そのまま業務の研究に通じます。それによる改善・工夫は、いわば開発に相当します。足元の業務を見つめ直したいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

彫刻家・平櫛田中翁の話思い出しました。107歳で世を去る直前まで制作を続けていたという田中翁。満百歳を前にして、あと 30 年制作に使える量の木材を購入したというエピソードがあります。主治医から「先生の身体は 70 歳」と太鼓判を押され、喜んだ田中翁は「それなら 100 歳までまだ 30 年生きられる」と考えたのだそうです。庭の一角に大量の木材が搬入された時、田中翁が色紙に書いた有名なざれ歌「六十七ははなたれこぞう おとこざかりは百から百から」。私も 100 歳までやり続けたいことがあります(笑)。

■親孝行のひとつのカタチ (広告欄)

お年寄りの家庭内事故は、交通事故よりも多い!

- 「畳の上の新聞を踏んで滑った」
- 「敷居につまづいた」
- 「階段から転落した」
- 「浴室で転倒した」・・・

若い人には想像できないような原因で家庭内事故が起きています。その数なんと年間 1 万件以上! 65 歳以上の死亡原因としては、交通事故より多いのだそうです!

家庭内事故の 73.3%はお年寄りが 1 人でいるときに起こっている!

小型の無線式ペンダントを身に付けていれば、1人でいても安心。通報を受けた警備会社は、通報者に電話で連絡を取り、ガードマンが現場に駆け付けたり、119 番通報や家族への連絡などの対応をします。

↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓
<シルバーパックプラン

工事費なし・ステッカー付 3706円/月
弊社は ALSOK の代理店をさせていただいております。
地域に関係なくお声掛けくださいませ。

<編集後記>

エニアグラム体験ワークショップが 8 月 26 日 (日) に行われます。引き逃げ事件を近くで目撃した場合、あなたならどういう心境でどんな行動をとりますか？

- ひき逃げという非情な行為を許せず、まずは逃げていく車を追う
- 加害者を許せないけれど、まずは倒れている人のことを何とかしたいと思う
- 加害者を追いかけても追いつかないと判断し、警察と救急車に電話をし、被害者の介抱にあたる
- ドラマチックな場面に遭遇したことに舞い上がり加害者や被害者のことをあれこれ想像する
- 冷静に状況を観察し、逃げていく車のナンバーを書き留め、救急車を呼ぶ
- 周りに助ける人がいないかどうかを確かめ、できれば誰かが解決してくれれば、と願う
- 状況を素早く判断し、周囲の人にも協力を呼びかけ、逃げていく車ではなく倒れている人を助けることに手を尽くす
- 加害者に怒り心頭し、全力で車を追いかけ、やっつけたくなる
- 大変な場面に遭遇してしまったと不安になり、どうしたらいいかわからなくなる

人の行動の動機は大きく3つに分かれるそうです。エニアグラムとは、自己成長とコミュニケーションのための人間学。

驚きの自分発見があると思いますよ。興味のある方はコチラをご覧ください。

<http://careernetwork.jp/?p=log&l=287062>

ハモコミ通信 2012 年 9 月②

◎ 初雁の声

九月も中旬を過ぎると、各地から初雁の飛来が報告されます。その年に初めてやって来る雁は、秋の深まりを告げる鳥として、古来より多くの和歌や俳句に詠まれてきました。中でも、戦国時代の武将・上杉謙信の次の和歌は有名です。これは魚津城を攻める軍営の中で詠まれたものです。

ものの心の 鎧の袖を片しきて 枕に近き 初雁の声

「武士の鎧の袖を片方だけ敷いて寝ていると、枕もとに初雁の声が間近に聞こえることだ」という意味です。明日の命も知れぬ陣中で、鎧を着たままで体を横たえながら、謙信は初雁の声を聞いているのです。

大切な仕事に臨む時ほど、周囲の声に耳を澄ませる心のゆとりが必要で、職場における周囲の声とは、同僚、業者、そしてお客様の声にはほかなりません。周囲の動静に耳を済ませることで、そこから生まれる「緊張感」「責任感」「連帯感」といったものが、適度に自分を高揚させてくれるのです。耳を澄ませる習慣によって、思わぬ心持ちが得られることでしょう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

伝わってきますね、雰囲気。謙信公の心が澄み切っていて曇りがなく迷いがなく、信念とともに研ぎ澄まされた状態。生死を賭けた極限の緊張に押し潰されることなく、泰然と我が道を行くリーダー。迫力を感じます。こういうリーダーが発する言葉には力があることでしょう。改めて内面を見つめ直すチャンスをいただきました。

◎ 沙漠の森

中国の内モンゴル自治区・恩格貝にあるクブチ沙漠で、十二年ぶりに植林ボランティアに参加したWさん。沙漠の大きな変容に、驚きを隠せませんでした。その地は、日本砂漠緑化実践協会の初代会長である故・遠山正瑛氏が、八十三歳で植林を始めた所です。氏は「砂漠緑化は、やればできる。やらなければ何もできない」と、各地の講演会で植林を呼びかけました。遠山氏は、とにかく行動することの重要性を強調しました。しかし、十二年前のWさんは植林はしたものの、広大な砂漠を目の当たりにして、「自分が数本の木を植えて何になる」と、諦めと侘しさに押し潰されて帰国したのです。ところが、かつてWさんが植林をした果てしない沙地は、背が高く幹の太いポプラの森になっていたのです。Wさんは、自分たちが十二年前に行動し、その後も多くの人たちの手で続けられてきた威力を思い知り、涙が止まりませんでした。

考えることは重要です。しっかり考えた後は、行動に移すことがさらに重要です。立ち止らず行動をして、成果を得たいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

若い頃、青年海外協力隊に参加し、中米のコスタリカという国で植林活動に携わりました。そんな私ですが、中国の沙漠緑化活動については、「せっかく植林をするならもう少し条件のいいところでやったほうが効率がいいじゃないか」と関心を持たずにおりました。まさに 12 年前のWさんと同じ気持ちだった私は、現在のその地が立派な森となった写真に愕然としました。継続した行動の力、見えないものを信じ続ける力をまざまざと見せつけられました。

<編集後記>

仙台空港で手荷物を預けるため列に並んでいたときのひとコマ。私の前には若者が 2 人。

スタッフの女性：「お客さまは ANA（エーエヌエー）ですか？」若者 A：「はい」スタッフの女性（次の若者に対して）：「お客さまは ANA ですか？」若者 B：「はい」そして私の番「お客さまは全日空ですか？」私：「は、はい」さらに続く「お客さまは ANA ですか？」ふり返るとうしろには若者が立っていた。

ハモコミ通信 2012 年 10 月号②

◎ 使い方に人柄が出る

昭和五十九年発券の五千円札の肖像画になった新渡戸稲造は、岩手県生まれの教育家で著名な国際人でした。この新渡戸の言葉に「金銭を正しく得ることは難しいがゆえに貴く、金を正しく使うことはさらに難しい」というものがあります。たしかにお金を手に入れることは、容易ではありません。「金は天下の回り物」といっても、なかなか自分のところへは回ってこないものです。私利私欲に凝り固まり、「自分さえよければいい」とひたすらお金を貯めることに懸命で、世間のためにはビター文も出したいくないという人がいます。

一方で貧しい財布の中からも、自分が今やれる範囲で精一杯の奉仕をする人もいます。闇雲にお金を散在する人もいたり、まさにお金とは、使う人の人柄がそこに表われるのです。お金の振りまわされる人生ではなく、思い切ってお金を働かせる人生へ、自らを高めていきたいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

全国のファンから要請されて、年間 300 回以上の講演を行っている中村文昭氏。彼は修行時代、師

匠から「お金の入口ばかり考えている人が多いが、大切なのは出口のほうだ」と、まさに今回の話と同じことを口を酸っぱくして語られたそうです。

ファイナンシャルインテリジェンスを唱えているロバートキヨサキ氏は、3つの貯金箱を用意して、毎日 100 円でも 10 円でもいいから、「貯蓄用」「投資用」「寄付用」として、同額ずつ入れなさい、と説いています。

つまり、貯金をしたい、投資をしたい、と思うのなら、同額寄付しなさい、という意味です。これを実践してみたら、

すんなり寄付ができるようになりました。

◎ 必要とされる人

企業で必要とされる人物像、あるいは条件とは、どのようなものでしょうか。まず、牽引力を持ったリーダーが思い浮かびます。しかし、リーダーも周囲の承認や支援を得て事業を成功に導くわけですから、多くの協力が必要です。一般職においても、勇気、信念、正義感、責任感、決断力、計画性、明るさ、思いやりのある心遣いなど、多くの能力を求められます。

吉野家ホールディングスは、今年九月一日付で、新社長に河村泰貴取締役が昇格する人事を発表しました。同社で約五年アルバイトとしての経験を持つ氏は、異例の昇進を果たしたといえるでしょう。同日付で代表権のある会長に就く安部修仁氏の目に留まったのは、河村氏の経営改革に取り組むスピードと実行力だったといえます。

仕事を頼まれた時は、それを処理する最高のチャンスです。即行・即決は、物事を成就させる秘訣であることは、多くの先人が証明するところです。様々な仕事に従事する私たちにとっても、必要な要件と心得たいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

吉野家で 5 年間アルバイトをしていた、ということは、5 年間フリーターだった、ということですね。そこから這い上がってきた河村氏の不屈の精神もすばらしいですが、そういう人材を抜擢できる吉野家という会社もすばらしいと思いました。どんな境遇であろうと、チャンスは本人次第、ですね。

◎ 知恵を出し合う

接客の基本的な形は、まず顧客を迎える挨拶から始まります。顧客の要望を正確に聞き、サービス・商品を提供してその対価であるお金を頂戴し、最後にお見送りの挨拶で終わります。この一連の対応は必要最低限のものであり、いずれも大事なことです

が、これはあくまでも接客する側の手順です。重要なのは、その接客により顧客が受ける印象の善し悪しでしょう。

雑誌『暮らしの手帖』編集長の松浦弥太郎氏は、「自分が関わった働きが人の心にじんわりと沈み、いくばくかの感動を人に与え、いつまでもその感動が心の底に残るようなものであって欲しい」と述べています。「いい店だった」という顧客の反応の裏には、その店の商品の良さとともに、顧客の心に響く何かを必ず備えているものです。それは、顧客の視点に立って生まれた知恵であり、絶妙な心遣いから生まれたものかもしれません。人に喜びと感動を与える接客を目指して、知恵を出し合ってみたいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

なるほど、接客というのは必ずしも直接会っている人に対してだけではないんですね。雑誌を編集する上でも、接客の精神というのがあるんだな、と。「いくばくかの感動を人に与え」まではさほど珍しいことではありませんが、「いつまでもその感動が心の底に残るようなものであって欲しい」というフレーズに、松浦氏の魂が感じられますね。

■親孝行のひとつのカタチ（広告欄）

<<火災報知の機能もあります>>

私の母79歳。ALSOKのシルバーパックプランに加入しています。先日、壁紙張替えのため、天井の煙感知器を取りはずしました。その途端、電話のベル。

「ALSOKですが、いかがしましたか？」そうでした。防犯や具合が悪くなったときだけでなく、シルバーパックには、火災や煙を感知して駆けつけてくれるシステムもあるのです。母は、たまに間違っただけでボタンを押してしまうことがあり、その度にALSOKから電話をもらうことになるのです。それがかえって母の安心感を深くしてくれているようです。

ALSOK シルバーパック、我ながらいいプレゼントでした。

↓↓↓↓↓↓↓↓

<シルバーパックプラン 工事費なし・ステッカー付 3706円/月> 弊社はALSOKの代理店をさせていただきます。

地域に関係なくお声掛けくださいませ。

<編集後記>

本日（10月14日）10時～15時、藤崎ファーストタワーオープンスペースにて「笑顔のアート展」が開催されています。300枚の笑顔アートの展示をはじめ、バルーンアート、消しゴムはんこ、アクリルタワシをつくるワークショップ、ダンスパフォーマンス（いずれも無料）など、気軽に楽しめる内容となっています。たまたまお近くを通られる方がいらっしゃいましたら、どうぞ立ち寄ってくださいませ。

ハモコミ通信 2012年11月号②

◎ 活きたフグ

企業家仲間の集まりに参加したS氏。寿し折詰・各種お弁当の販売をしているK社長から、輸送中にフグが死なない方策について興味深い話を聞きました。「下関のフグを生きたままどうやって東京に輸送しているのか。それは水槽の中に、フグの天敵であるカワハギを入れることによって、フグは常に危機感を持ち続ける。それによって死亡率は大幅に下がった」というのです。フグにとって、一定のプレッシャーは生きる上での必要条件だったのです。これはフグの世界に限らず、人間にとっても同じことが言えるでしょう。

ミスタープロ野球こと長嶋茂雄氏も、現役時代には天覧試合などプレッシャーがかかる試合に強く、その中で打席に立てること自体に感謝していたといいます。

一緒にいると緊張させられる人間を、職場ではつい敬遠しがちです。しかし反対に、プレッシャーのない空気は、時として緊張感に欠けた場になりがちです。何事も適度な負荷をかけなければ、現状からの変化は望めません。プレッシャーがなければ、楽な毎日であるかわりに、未来は何も変わらないままなのです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

好景気よし、不況さらによし、と言われるのはこんな理由もその一つかもしれませんね。ストレスというのは、普段悪者扱いされますが、たるんだ状態ってというのは更に悪い、ってことですね？緊張と弛緩、その適度なバランスが必要ってことですね。いつも程よい刺激をいただいて、世の中や周囲のすべてに感謝しなくては。

◎ 自己を突破する

スポーツにおいては、競技中に大きな声を出す選手の姿を見かけます。テニスのトッププロとして活躍する、ロシアのマリア・シャラポワ選手などは、その音量の数値が記事のネタになるほどです。競技中に大声を出すことについて、筋生理学者の谷本道哉氏は「大声を出して一時的に興奮状態を作り出すことで、人が無意識に抑制してしまう力をカットし、いつも以上の効果が得られる」と解説します。

確かに人は、自分自身を抑えてしまう性質を持っています。特に疲労時や気分が乗らない時などは、抑制が悪い方向に働き、思考や行動が鈍くなるものです。大きな声を出すことの効用は、新入社員教育や活力朝礼などの人材育成の場において、自分の体力や思考の限界を突破する方法として活用されています。業務時間中は派手な発声は控えなければなりません。しかし朝礼の場では、妙な遠慮は必要ありません。朗らかで切れのある声を出し、自分の成長を図る場として活用したいものです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

確かに、朝、大きな声であいさつをすると、とても気持ちよく1日がスタートできます。小聲は、周囲への配慮であると同時に、委縮した自分、委縮した仕事への布石にもなっている、という新たな気づきがありました。夜カラオケで大声を発したとしても、その時はよくても仕事に直接は活かせないでしょう。そういう意味でも、やはり朝の元気なあいさつは重要だと思いました。

<編集後記>

弊社の電話対応のこぼれ話です。たまたまその電話の前に、雑談で鍋の話をしていた弊社Aさん。

お客さま：「社旗を頼みたいんだけど」弊社A：「えっ、シャケですか？」お客さま：「んでねえ。旗だ、旗」弊社A：「ああ、ハタハタですね？・・・」

もちろん、その後誤解をお詫びし、笑い話として失礼なく終わった話でした。

ハモコミ通信 2012年12月②

◎ ひび割れた水瓶(みずがめ)

インドに一人の水汲み男がいました。天秤の左右の大きな水瓶に水を汲み、丘の上にある主人の館まで運びあげるのが仕事でした。館に着いたとき、右側の水瓶にはなみなみと水が入っていましたが、左側の水瓶はひび割れていたため水は半分しかありません。ひび割れた水瓶は

「自分はひび割れていて役に立たないから、取り替えてくれ」と男に頼みましたが、男は何も言わずに水を運び続けました。右側の水瓶はいつも満杯の水をたたえて得意そうにしています。

2年あまり経ったとき、たまりかねたひび割れた水瓶が「自分のような出来損ないを使っているのは、あなたの努力が報われない。申し訳ないから、完全な水瓶を使ってほしい」と、また頼みました。男は黙って、丘の上から振り返りました。すると、道の右側には美しい花が咲き乱れています。水汲み男は、「最初から水漏れに気がついていたのだよ。お前のひび割れを利用して役立てようと考え、私は道の左側に花の種をまいておいたのだ。お前のひび割れのお陰で、雨の降らない土地なのに、こんなに見事な花が咲いた。ご主人様は毎日新鮮な水と咲き誇る花の美しさを喜び、感激していらっしゃるのだ」と言いました。ひび割れ水瓶はひびがあったからこそ美しい花を咲かせることに貢献できたことに気づいたのでした。

私たちはそれぞれ自分だけのひび割れを持っているのです。私たちは皆ひび割れ水瓶なのです。

必要でないものは何もないのです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

どこかでお聞きになったことのある方もいらっしゃるかもしれません。

『短所も裏を返すと長所になる』

以下は、30歳前後の友人2人にインタビューをして、その実例をあげてもらったものです。

神経質 ⇒ 繊細せっかち ⇒ 行動が迅速不器用 ⇒ 細かいことにとらわれない優柔不断 ⇒ 慎重に考えてから行動引込み思案 ⇒ 奥ゆかしい、出しゃばらない面倒くさがり ⇒ 必要なことを優先して行うおとなしい ⇒ サポート役に向いている 意思が軟弱 ⇒ 思考が柔軟

まだまだあるのですが、一部をご紹介させていただきました。

ハモコミ通信 11月号で、魔法の言葉「これがよい」昭和編というお話をご紹介しました。今回のお話もこれと共通するところがありますね。今、ここ、

を全部肯定したとき、「ではそれを活かしていくにはどうすればいいか？」という発想が湧いてくるのでしょうか。この水汲み男を手本とし、他人にもその考え方を分け与えたり、全て良いものとして活かしていきたいものですね。

<編集後記>

1 年間、ハモコミ通信をご愛読いただきまして誠にありがとうございました。月 2 回のメール配信のうち、月初のほうは、ホームページに JPEG データとテキストデータとして掲載させていただいております。

<http://iki-sangyo.co.jp/?p=album&c=3173>

よろしければ過去のものもご笑読いただければ幸いです。とても変化の大きい世相ですが、来年もしっかりと足元を踏みしめ、自分たちの役割を果たしていきたいと思っております。1 年間ありがとうございました。どうぞ良いお年を！